

(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日：令和5年6月25日

作成者： 芦田 耕司

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的な数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
NPO 法人 兵庫県暮らしにやさしい防災・減災	
事業名	日時 (期間), 場所
神戸市消防局主催の BOKOMI (ボウコミ) フェスタに出展参加と活動紹介	令和4年10月30日 ポーアイの神戸学院大学構内
内容 (実績) *実施したことを具体的に	受益者数
・ コロナ禍でしたが神戸市内に市立小学校 190 ある福祉コミュニティと防災コミュニティと一緒に活動する BOKOMI (ボウコミ) の会員たちと一般市民に対する防災・減災意識の啓発のためのフェスタが盛大に開かれました。 私たちも BOKOMI (ボウコミ) サポーターとして初めてブースでの出展と団体の活動紹介のお話に参加いたしました。	消防の発表によると約 3,000 人(児童・園児と保護者及び地元の方など)
	参加者数
	3 人(スタッフ含む)
成果 (社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
災害国日本に住む私たちはいつ、どこで、どんな災害に逢うか判りません。そこで、最近起きた災害の時のお話と、楽しく遊びながら防災・減災の正しい知識を学び、「自助」意識と「防災力」を高められるように努めたつもりです。	
今後の展望 (どのように継続、発展するか)	
・ 災害国日本では、正常性バイアス (偏見や先入観) のために防災・減災は「自分は大丈夫」とか、「他人事」と捉えている方が大変多い中で、かなり風化してきている阪神大震災の経験をもとに「自助」意識の向上をめざして防災啓発活動を粘り強く続けていきます。 ・ さらにコロナ後には芦屋市立の小学校8校のキッズスクエア (放課後こども教室) においても可能な範囲でかるた取りなどにより防災・減災啓発活動を継続していく予定です。 ・ いろいろな機会に子供たちが正しい「防災・減災」の知識を学ぶことにより、やがて成人し次の世代の子供たちにその知識を伝えていけるように励まして、10年~20年の年月をかけて「災害文化」を築き、国が勧める国土強靱化につながれば幸いです。	